1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475101598
法人名	社会福祉法人　青葉福祉会
事業所名	青葉の風
所在地 （電話番号）	仙台市青葉区荒巻字三居沢1－16 （電　話）022－217－9902

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20　年　12　月　16　日

【情報提供票より】（平成20年11月26日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　4　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　8　人、非常勤　2　人、常勤換算　8.4人

（2）建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート　造り	
	4 階建ての　1、2、4、階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	53,000　円		その他の経費（月額）	（光熱水費）18,000円
敷　金				
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円			

（4）利用者の概要（ 12月　1日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		2　名	要介護2	0	名
要介護3		2　名	要介護4	3	名
要介護5		2　名	要支援2	0	名
年齢	平均	83 歳	最低　73 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人　岩切病院　・　北田内科医院　・　塚田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

仙台駅から西へ4Km、広瀬川の河畔の近くに特養ホームやケアハウスと併設してグループホーム青葉の風がある。法人の基本理念は「乳幼児から終末まで」と言う生涯福祉理念に基づき、保育園や老人福祉施設など幅広く営んでいる。ホームは、看取り介護の指針や家族同意書、医師の意見書、意思確認書等を作成しており、ホームのできるケアについて早い時期から家族に説明し、ターミナルに移行している方への支援にあたっている。半年前にホームの開設時から苦労を共にして来たベテランの職員の交代（退職により）があったが、入居者や家族の心理的なケアを守るために、職員一丸となり努力してきた。大変な時期を乗り越え、今は職員も増員され入居者の個別ケアの充実を図っていきたいとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 評価の改善課題の取り組みは①事業所独自の理念になっているが、地域密着型サービスとしての理念は見直し中である。②職員の異動はないが、職員が定着できるよう一層の努力を期待したい。③採用時研修は行っており、他の研修にも参加するなど改善されている。④特養ホームの管理栄養士から指導や助言をもらい改善されている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 評価の目的や意義は理解しており、全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価票は全員に配布し分担して行い、責任者がそれをまとめ管理者が作成している。評価に関わってみて「日頃のケアを振り返る良い機会となり再確認できた」としており、改善したい課題は、前向きに努力したいとしている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は、3回開催され、町内会長、協力医、民生委員、包括支援センター所長、家族会会長、ホーム側2名の計7名が参加している。ホームから入居者の状況や行事などの報告があり、メンバーから意見や要望等が出され双方向に話し合いが行われていた。しかし、5月以降の開催は行われていない。運営推進会議を基準省令のおおむね2ヶ月に一度の開催に向けて早い内から声掛けして推進会議につながるようにしていただきたい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の面会時や電話で意見や苦情を聴くようにしている。家族会の開催は年4回行われ、毎回家族のみで話し合える時間を用意している。管理者は、その報告をもらえるものとしている。また玄関先には苦情相談窓口として、施設や行政の連絡先が明記されており、それに加えて気軽に相談できる第三者委員2名を委嘱し掲示されていた。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会に加入しているが、ホームの周辺は一般の住宅はない。管理者は、日常的なお付き合いは併設しているケアハウスや特養ホームを地域の交流の場と考え、こちらから積極的に出向いたり来てもらうなど連携を図っている。また、法人の保育園を訪問し、昼食会や運動会、クリスマス会等を楽しんでいる。今後は、地域の輪を広げて住民とも交流を図っていきたいとしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関を入ると目につきやすい場所に「お互いが共感し合い、親身になって接し、信頼し合える関係をつくります」として、ホーム独自の理念が掲げてあった。職員の間では、より分かりやすく、地域の継続の大切さも考慮しての理念の話し合いが行われており、見直し中とのことであった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を提示したり、話し合って共有している。新しい職員には、理念の内容を説明し日々の実践に向けて取り組めるように努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、ホームの周辺は一般の住宅はない。管理者は、併設しているケアハウスや特養ホームを地域の交流の場と考え、積極的に出向いたり、来訪してお茶を飲んで頂くなど連携を図っている。また法人の保育園の昼食会、運動会、クリスマス会等に参加し楽しんいる。今後は、地域の輪を広げて住民との交流を図って行きたいとしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義は全職員は理解しており、全員で自己評価に取り組んでいる。評価票は全てに配布し分担して行い、責任者がそれをまとめ管理者が作成している。評価に関わってみて「日頃のケアを振り返る良い機会となり再確認できた」としており、改善したい課題については、前向きに努力したいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3回開催され、町内会長、協力医、民生委員、包括支援センター所長、家族会会長、ホーム側2名の計7名が参加している。ホームから入居者の状況や行事等の報告があり、委員からは意見や要望等が出され双方向に話し合いが行われていた。しかし、その後はホームの事情や開催の呼びかけにも参加者が少ないなど、5月以降の開催は行われていない。	○	運営推進会議を基準省令の2ヶ月に一度の開催に向けて、早い内から声がけをして推進会議につながるようにしていただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、法人の代表者でもあり行政との話し合いや相談等行き来する機会も多い。また、包括支援センターの所長は運営推進員にもなっており何かと助言を貰いサービスに反映している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話で報告を行ったり、定期的に入居者の状況報告を文書で伝えて、金銭の預金の報告も同時に行っている。また毎月「文の日」には、入居者の状況を写真で報告したり、収支報告書を渡して同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情は、面会時や電話で聴くようにしている。家族会は年4回行われ、毎回家族のみで話し合える時間を用意している。管理者は、その報告を受けている。玄関先には苦情相談窓口として施設や行政、外部へ第三者委員2名を委嘱し掲示されている。また苦情受付箱も置かれていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には管理者や職員の異動はしないようにしているが、開設当初から関わりのあった職員の交代(退職により)があり、入居者や家族の心理的なケアを守るために職員一丸となり努力してきた。大変な時期を乗り越え、今は職員の数も増えたので入居者の個別ケアの充実を図っていきたいとしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に全職員（パートも含む)が参加できる機会を設けて実施している。内部研修は併設施設の専門職種の方から指導を頂いたり、外部研修には4名が参加するなど、研修後は全職員で研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟しており、グループホーム協議会（仙台支部）が行っている交換研修に出向いたり、市内開催の研修会にも参加するなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する際は、情報を持ち寄り会議等で話し合いをし環境を整えるなどして実行している。本人の自宅に伺ったり、家族と一緒にホームに来てお茶を飲むなど徐々に馴染んでもらい、時には家族に宿泊してもらうなど本人の状況に合わせて入居に繋がるように工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人が本人らしく生活できる距離感を大切にしながら支援している。また、入居者から生活の技や文化を教えてもらい、料理の味付けや洗濯、掃除、茶碗拭きを一緒に行うなど常に感謝している（職員のヒアリングから）。ホームの屋上には庭園があり入居者と花の手入れをしたり、野菜の種を蒔くなどして楽しんでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を活用したフェイスシートに日常のケアの会話の中で気づいた事などを記録し、職員一人ひとりが熟読するように心掛けている。また、意思表示の困難な方には、家族から意見を求めたり、時間をかけて意向を汲み取るなど本人本位のケアに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の意思や思いはアセスメントシートを使用し家族の要望や職員の気づきから課題を抽出して、またホーム以外の医師や看護師、栄養士等の意見を取り入れて、ケアカンファレンスを行い個別のプランを作成している。プランは家族の同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度管理者と職員3名が会議の際に、フェイスシートを基に家族の意向も確認し介護計画の見直しについて話し合いを行っている。また、状態が急変した場合は、本人、家族、関係者と話し合ってその都度プランの見直しを行い、家族に報告し渡している。できるだけプランの見直しを定期に合わせて行いたいとしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は、殆どの入居者の介添えを職員が行っており、病院の帰りには入居者の希望する買物やお茶を飲むなど、その時々の要望に応じて柔軟に対応し楽しんでもらっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の殆んどは、協力医がかかりつけ医となっており、24時間連絡体制が取れるようになっている。また、「月1回の往診により健康管理や医療面で安心している」(家族アンケートから)としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	青葉看取り介護に関する指針や家族同意書、医師の意見書、意思確認書等を作成しており、ホームのできるケアについて家族に説明している。現在、入居者でターミナルに移行している方もいて、その人らしい最期が迎えられるように、本人や家族、職員等と話し合いを行い、医師や看護師とも連携を図りながら指導や助言をいただいている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として尊敬の念を持って接しており、トイレや入浴時の言葉掛けは、その人の自尊心を傷つけないように支援している。記録簿や個人情報の取り扱いは充分に配慮して、事務所内で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人を知る為にも、生活歴や生活リズム等に配慮して本人本位のペースを大切に柔軟に対応している。また意思表示の困難な方の思いを汲み取るなど一部の入居者だけにサービスが偏らないように支援したいとしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や料理の味付け、盛り付け、茶碗拭き等は、入居者の状況に応じて一緒に会話を楽しみながら行っている。食材は地域の商店との交流に配慮して利用しており、旬の物や新鮮な物を週2回購入している。入居者は比較的魚より肉類を好んでおり、食事は職員も一緒に摂り、さりげなく見守りゆっくりと楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの生活習慣や希望を聴いてその人に合った入浴ができるように支援している。毎日入浴を楽しむ方や夜の8時～9時に決まって入浴する方など様々である。一般浴の困難な方には、ホームのリフト浴で対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬり絵や裁縫、編み物、書道、園芸等入居者の有する力を発揮して一人ひとりに合った支援を行っている。月2回ボランティアの方がハーモニカの演奏を楽しませてくれているが、職員は楽しみごとや気晴らしの支援などは充分とは言えないとしている。	○	楽しみごとや気晴らしの支援は入居者に取って、張り合いや喜びのひとつであり、日頃のケアの中の気づきを取り入れて一人ひとりが生き生きと生活できるように、個別のケアの充実を図っていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は、併設する特養ホームやケアハウスに出向いて日常的に散歩に出掛けたり、お茶を飲むなどしている。また、天気のいい日には屋上の庭園でお花畑を散策したり、椅子に腰を掛けて日向ぼっこなど楽しんいる(市の花火大会は最高との事)。車椅子の方にはリフト車で買物へ出掛け、気分転換するなどその人に合った支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは2階にあり、日中の玄関や居室は施錠されていない。(門扉は、建築上自動施錠になっている)。職員は入居者の外出傾向を把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の推進会議で協力医の勧めによりAEDは設置される事になった。また救命救助の受講も定期に行われ、安全確保に力を入れている。年2回合同避難訓練(夜間想定)を法人の支援施設の応援の下で行っているが、ホームが2階にあり避難経路はテラスを通路として1階まで繋がっており、車椅子の方や手引き歩行の方が多くなって来ている中、職員は応援なくしてはできないとしている。	○	人手の少ない夜勤体制の大災害の時でも、入居者を慌てず、不安なく誘導するために、職員と入居者が一緒になってホーム独自の夜間を想定した訓練を行っていただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は調理師の資格をもっており、食事の献立(2週間分)は入居者の嗜好や栄養バランスを考慮して作成している。1日の食事量や水分量は記録され、月1回の体重測定も行われ健康の調整を図っている。また、併設する特養ホームの管理栄養士から献立や食事形態の工夫などの指導や助言をいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節がらクリスマスツリー等が飾られており、和室にはコタツが置かれていた。居間兼食堂の大きなガラス越しに広いテラスが見え、太陽の光が降り注ぐ中、小鳥が餌台を飛び交うなど生活感のある明るい共用スペースであった。入居者の大半は午前中は、この食堂でぬり絵やお話をしたり、テレビを観て過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と居間の間にトイレがあり、9部屋の内一部屋のみが居室内にトイレが設置されていた。また、和室を好む方は畳を敷いて過ごしている。家族の協力を得て、ベットやテーブルセット、コタツ、テレビ、仏壇等使い慣れた物が持ち込まれ、その人に合った居心地のいい居室となっていた。		